

意図・立場を明確にして話し合う

基本問題

解答	<p>(4) (3) (2) (1) 2 エ ウ ア イ</p> <p>(4) (3) (2) (1) 1 ア オ ウ イ</p>
アドバイス	<p>1 話すときは、まず話す内容と自分の考えをきちんとまとめます。その上で、聞く人によく伝わるように工夫をしましょう。</p> <p>2 話を聞くときは、話の内容と話す人の考えを正確に聞き取ります。そのために必要な注意点を考えましょう。</p>



意図・立場を明確にして話し合う

チャレンジ問題

解答	(2) (1) 2 ○ × (4) (3) (2) (1) 1 ア ウ エ イ
アドバイス	1 話し合いのテーマ・目的を見失わないように注意しながら、適切な態度で話し合いを進めましょう。 2

相手や目的に応じて話そうと

基本問題

解答	アドバイス
<p>(2) (1) </p> <p>ウ ア</p>	<p></p> <p>敬語には、大きく「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」の三種類があります。何がだれの動作か、だれが目上の人か、などに注意して、敬語を使い分けられるようにしましょう。</p> <p>(1) イ・ウは尊敬語なので、自分に対して使うのはふさわしくありません。</p>



相手や目的に応じて語彙

チャレンジ問題

解答	アドバイス
<p>◆</p> <p>(1) うかがい (2) ア (3) ア</p>	<p>◆</p> <p>(1) 「行く」「来る」の謙譲語と、「聞く」の謙譲語は、どちらも「うかがう」になります。</p>

書く事柄がらや組み立てを考えて書く

基本問題

解答	アドバイス
<p>(3) (2) (1)  ウ カ オ</p>	<p> 文章の書き出しは、読む人の関心をひくためにとても重要です。文章の内容・構成にふさわしい書き出しを工夫しましょう。</p>

書く事柄や組み立てを^{がら}考えて書く

チャレンジ問題

解答	アドバイス
<p>◆</p> <p>(1) (例) それは、五年前のことでした。ぼくは当時アメリカに住んでいました。</p> <p>(2) (例) わたしは、冬より夏の方が好きです。なぜなら、わたしは寒がりだからです。</p> <p>(3) (例) ピンポーン。げん関のチャイムが鳴った。ぼくは、だれだろうと思いがらドアを開けた。</p> <p>(4) (例) 人生で最も大切なものはなんだろうか。わたしはずっと考えてきた。</p>	<p>◆</p> <p>いろいろな書き出しの文章を実際に書いて、書く力をのばしていきましょう。</p>

目的や意図を考え、表現を工夫し書く

基本問題

解答	アドバイス
<p>(2) (1) 2 ア ウ</p> <p>(2) (1) 1 イ ウ</p>	<p>1 ことばを学習するときは、意味だけでなく、そのことばを用いた例文もいっしょに確かめるようにしましょう。</p> <p>2 さまざまな表現の工夫の学習は、読む力をのばすことにも役立ちます。</p>

目的や意図を考え、表現を工夫し書く

チャレンジ問題

解答	アドバイス
<p>1</p> <p>(1) (例) 母の返事はそっけなかった。</p> <p>(2) (例) わたしは、かろうじて生き延びた。</p> <p>(3) (例) 相手の表情から、気持ちをおしはかる。</p> <p>2</p> <p>(1) (例) ボールは、キーパーの手をすりぬけた。そして、そのままゴールに飛びこんでいった。</p> <p>(2) (例) そこには、落ち葉が厚く積もっていた。そっとふんでみると、じゅうたんのようになやわらかかった。</p> <p>(3) (例) 返ってきたテストを見て、おどろいた。なんと百点。うれしくて、つい声を出してしまった。</p>	<p>1</p> <p>文を実際に書く練習を通して、ことばの使い方もしっかり身につけましょう。</p> <p>2</p> <p>表現の工夫を用いることで、文章がずっと豊かになります。いろいろな表現の工夫を組み合わせる練習にもちよう戦して、より長い文章を書けるようになりましょう。</p>

説明文を読むひと

問題

解答



(1) (れい) 春の七草を入れたおかゆを食べれば、その年は病気知らずで健康に過ごせるということ。

- (2) ① ウ
- ② イ
- (3) 春の七草
- (4) ウ

アドバイス



(1) 「一見、迷信のようでもある(が、そうと言われていくこと)」の内容を、直前に書かれていることからまとめます。

(3) 傍線部ほうせんぶを「それらを、胃にやさしいおかゆにして食べることで、正月中に飲み食いして無理がたたった体を、内側から温かくいやすことができる食べ物」とは、七草がゆのことです。ですから、「それら」にあたる「おかゆにして食べる」ものとは、春の七草ということになります。

(4) 「現代のような飽食ほうしょくの時代にあっては、このような質素な食べ物が消えていくのも当然のこと、いたしかたないことなのかもしれない。ただ、どこかもつたいなく、さびしい気もしてくる。きたる正月には、古き良き食文化の一角をなす、この七草がゆを食してみてはいかがだろうか」という部分が、ウの内容と合っています。

物語を読むひと

問題

解答	アドバイス
<p>◆</p> <p>(1) 首のまわりへ縄をつけ た茶色の子犬</p> <p>(2) ウ</p> <p>(3) ウ</p>	<p>◆</p> <p>(1) このあとの本文中で、「ただ学校の帰りらしい、洋服を着た子供が二、三人、首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬を引きずりながら、何かわいわい騒いでいるのです」と、この場面を説明している部分があります。ここから十六字で「首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬」を書きぬきます。</p> <p>(3) 白は茶色の子犬を助けたあと「さあ、おれといっしょにこい。お前の家まで送ってやるから」と言っ、子犬を家まで送り届けてやります。</p>

漢字の読み・漢字の書き、送り仮名

基本問題

解答	アドバイス
<p>(1) 1 きせい うめ</p> <p>(2) (2) ぎょこう ふなたび</p> <p>(3) (1) 2 副題 水辺</p> <p>(4) (2) 投票 治(る)</p> <p>(1) 3 短い 別れる</p>	<p>1 漢字には、いくつかのちがった読み方を持つものがあります。きちんと読み分けられるようにしましょう。</p> <p>(1) 「省」には、「せい」「しょう」という音読みがあります。</p> <p>(4) 「船旅」の場合は、「船」は「ふな」と読むので、気をつけましょう。</p> <p>2 読み方が同じことばでも、書く漢字がちがうことがあります。しっかり書き分けられるようにしましょう。</p> <p>(4) 「なおる」には、ほかに「(故障などが)直る」があります。</p> <p>3 送り仮名については、一つ一つ確実に覚えていきましょう。</p>

漢字の読み・漢字の書き、送り仮名

チャレンジ問題

解答		アドバイス
<p>(3) (1) ③ 任 必 せる ず</p> <p>(4) (2) 断 浴 る びる</p>	<p>(5) (3) (1) ② 布 新 便 居 利</p> <p>(6) (4) (2) 似 築 留 (た) (く) 学</p>	<p>(5) (3) (1) ① つ あ そ ね い こ ご</p> <p>(6) (4) (2) や つ ひ まい み き</p>
		<p>(1) ① 「素」「行」、 (2) 「カ」の読み方に注意しましょう。</p>

熟語の組み立てを知ると

基本問題

解答	アドバイス
<p>(2) (1) 3 (3) (2) (1) 2 (3) (2) (1) 1 イ ア ア オ イ ウ ア イ</p>	<p>1 (1) 「再発」は、上の字が下の字を修飾<small>しゆしやく</small>しています。 (2) 「登山」は、「く・くを」にあたる漢字が下にあるものです。 (3) 「完全無欠」は、「完全」「無欠」という、似た意味の熟語が重なっているものです。</p> <p>2 どの熟語にどの打ち消しの語がつくのか、一語ずつしっかり覚えていきましょう。</p> <p>3 熟語を学習するときは、同意語もいっしょに覚えようと、漢字の読み書きや読書に役立ちます。</p>

熟語の組み立てを知ると

チャレンジ問題

解答	アドバイス
<p>(2) (1) 3 (3) (2) (1) 2 (5) (4) (3) (2) (1) 1 ウ ア ア エ ウ ウ エ エ ア イ</p>	<p>1</p> <p>(1) 「軽重」と「高低」は、対<small>たい</small>になる漢字の組み合わせです。</p> <p>(2) 「市堂」と「骨折」は、上の字と下の字が主語・述語の関係になっています。</p> <p>(3) 「強風」と「曲線」は、上の字が下の字を修飾しています。</p> <p>(4) 「習字」と「加熱」は、「く・くを」にあたる漢字が下にあるものです。</p> <p>(5) 「東西南北」と「花鳥風月」は、四つの漢字が対等の関係で結ばれている四字熟語です。</p>

文や文章の構成についての理解

チャレンジ問題

解答	アドバイス
<p>(6) (5) (4) (3) (2) (1) 2 (2) (1) 1 ク コ カ オ ア ウ ウ イ</p>	<p>1 (1) ア・ウ・エは人から伝え聞いた「そっだ」、イはおしはかる「そっだ」です。 (2) ア・イ・エはほかから動作を受ける「られる」、ウは「〜できる」という意味の「られる」です。</p> <p>2 あとにくることばと組になって、話し手の気持ちを表すことばを学習するときは、受けることばの形だけでなく、同じような意味を持つことばも覚えるようにするといいでしょう。</p>

敬語についての理解

基本問題

解答	<p>(4) (3) (2) (1) 2 (3) (2) (1) 1</p> <p>ウ イ ア ウ ウ ア イ</p>
アドバイス	<p style="text-align: right;">2</p> <p>(1)・(4) 丁寧語には、「お～・ご～」「～です・～ます・～でございます」という形があります。</p> <p>(2) 「くださる」は、「くれる」の尊敬語です。</p> <p>(3) 「うかがう」は、「聞く」「質問する」「訪問する」「行く」「来る」などの謙譲語です。</p>

敬語についての理解

チャレンジ問題

解答	アドバイス
<p style="text-align: right;">1</p> <p>(1) アイ (2) ア (3) ウ (4) オ</p> <p style="text-align: right;">2</p> <p>(1) 申して (申し上げて) (2) ○ (3) ○ (4) ○</p>	<p style="text-align: right;">1</p> <p>(1)・(4)は、自分が動作の主体となっているので謙譲語を使います。また、(2)は「先生」が、「お客様」が、それぞれ動作の主体となっているので、尊敬語を使います。</p> <p style="text-align: right;">2</p> <p>(1) 身内である父が動作の主体となっているので、謙譲語を使います。 (2) 自分が動作の主体となっているので、謙譲語を使います。 (3)・(4)「お(ご)になる(なさる)」は尊敬語、「お(ご)する(いたす)」は謙譲語です。</p>